

## 揖斐川町学校教育の在り方審議会

### いび幼稚園保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年2月26日（木） <開会>15時00分 <閉会>16時00分

2 場 所 いび幼稚園 遊戯室

3 出席者

審議会委員 徳永 恵理奈、中島 勝義

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

保護者・家族 13人

幼稚園教員 5人

4 次 第

#### （1）挨拶&概況説明

- ・ 徳永委員より、開会の挨拶を行う。
- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

#### （2）意見交換

参加者：幼稚園の統合に関する内容としての意見で、性格が合う、合わないということはあるが、子どもの数が増えることによって刺激になるとともに、同年代ならではの関わりによる学びがあることや、少人数では難しかった活動が可能になって幅が広がるよさがあると思っている。一方で、今は先生が一生懸命に保育をやってくださっており、少人数だからというわけではないかもしれないが密な保育を享受できていると思っているため、統合する場合には先生の負担が増えないよう人員配置等に考慮していただきたい。

参加者：揖斐小に子どもたちがお世話になっており、今の4年生の子どものクラスは24人なので、教室の大きさから考えるとちょうどよいと思っている。また、幼稚園から一緒にいることで、信頼関係のある非常によい雰囲気のある学年だと感じている。

一方、1年生の子どもの12人のクラスなので、教室の密度が低く寂しいような感覚がある。また、私の子どもは恐らく繊細なところがあり、12人しかいないのに先生は2人いるという環境がプレッシャーになっているようにも思うので、その子にとってはもう少し人数がいて紛れられるクラスの方がよかったのかもしれないと考えている。田舎を求めて揖斐川町に移住する方にとってはそうしたのびのびと過ごせる環境もよいと思うが、一方で紛れられる環境を求めている場合にも対応できるよう、大規模の学校と小規模の学校を選択できるようにしてもよいのではないかと感じている。

参加者：私自身が小学生の時には2クラスあり、仲の良くない子がいても次のクラス替えの時を楽しみにするようなことがあった。子どもたちにも社会があり、性格が合う、合わないということもある。自分だったらと考えても少人数過ぎるのはつらいと思うので、大きすぎる規模ではなく、クラス替えがある程度の規模の学校で子どもたちが社会を築いていけるとよいのではないかと。

参加者：私は揖斐川町への移住者だが、私が小学生の時には1クラスの人数が40人を超えており、その規模だとクラスの中にいじめが多々あった。また、私は幼稚園に通っていた

が、人数が多すぎて当時の友達の名前はわからないほどである。一方で、町内の友人から子どもの話を聞くと、少人数だったことによってきょうだいのような深い関係性がある。そのおかげで性別に関係なく仲良くできており、こうしたよい関係性を育むことができるのは少人数ならではのよさなのではないか。

私の長男はいび幼稚園で6年お世話になっているが、先生たちの努力が子どもたちに大きく反映されていると感じている。少人数だからこそ先生の目が行き届いており、子どもの数が多くなると先生の目が行き届く範囲も狭くなるのではないか。このいび幼稚園の先生と子どもたちの関係性は、都会では味わえないものだと思っている。さらに、今の子どもたちは昭和や平成の頃に比べると繊細になってきていると思うので、そうした面でも少人数ならではの小さいじめの芽を発見しやすい環境はよいと考える。

加えて、揖斐川町に移住したいという保護者がいた場合、大人数の学校に入れたくて移住したいというわけではなく、少ないからこそ先生の目が行き届くということで移住につながっているのではないか。大人数の学校を希望するならば、都会に行けばよい話である。近隣自治体では山県市は統合しない方針を、大野町は統合する方針を出しているが、私はどちらかという山県市の考え方に賛成であり、揖斐川町も統合しないよさをどんどんアピールしていった方が今後子どもたちも増えると思っている。最後に、町内にはフリースクールがあり、学校に行くことができない子どもたちを集めて活動されている方もいる。そうした通うことができない子どもたちには様々な理由があると思うが、小規模な学校のほうがそういった子どもたちを少なくすることができるのではないかと感じている。大人数になるほど先生たちの目はどうしても行き届かなくなることや、先生の人数にも限りはあると思うことから、私は小規模な学校がよいと考える。

教育長：幼稚園に関する内容も話していただいたが、いび幼稚園の先生としていかがか。

参加者：いび幼稚園でも遊びを主体として、登園した子から外で遊ぶということを4月から行っている。幼稚園だからこそ経験できることや、子どもたちの思いを伸ばしてあげるにはどうしたらよいかということ、子どもたちが何に興味を持っているかという環境設定などを日々職員の中で考えながら取り組んでいる中で、保護者の方にも子どもたちがのびのびと思切り遊び込む姿をいつでも見ていただけるような園にしたいと思っているため、そういった意見を聞かせていただけて嬉しく思っている。

先ほどのご意見にあったように、今の子どもたちは本当に繊細で、これからの時代は子どもたちにとって様々な面で大変な時代になると感じている。だからこそ遊びを通じて学んでいくことが本当に大事だが、一方でこれからの時代に欠かせないICTやタブレットについてはご自宅でも触れていると思われるため、幼稚園でどう扱うかについてはじっくり考えていかなければいけないと考えている。

参加者：まず、こうしてこれからの教育についての話し合いに参加できるのはよい機会であり、人口が少ないからこそ意見が届くのではないかと考えると、そういった面でも揖斐川町はよいところだと思っている。

学校については、私の子どもはまだ園児だが少し特性があり、これから小学校でもお世話になるというところである。ちょうど昨日教育相談会に参加させていただいた時にも、教頭先生から不安なことはいつでも電話してよいとお答えいただき、それだけ親身になってもらえることに安心するとともに、親も声を上げてよいという感覚にな

ったので、改めて揖斐川町のよさを感じていた。

ここまで意見を聞いていて、統合によって少人数だからこそ目が行き届きすぎるとい  
うデメリットをなくすることができることや、施設数が少なくなることにより予算を集  
約できるというメリットがあると思う一方で、私が町外から移住した理由には揖斐川  
町のアットホームな地域柄に惹かれたということがあり、小学校が大規模になること  
によって声が上げづらくなるのではないかという懸念もある。どちらがよいとは言え  
ないが、よいところは残していただけるとありがたいし、先ほど意見のあった選択制  
というものも魅力的だと感じた。

参加者：やはり小規模にも2クラス以上の規模にもよさはあると思うが、私はこれまで小規模  
の環境で育ってきて、男女の仲のよさや仲間関係の深さはよかったと感じている。子  
どもたちが今育っている環境もよいものだと思うため、全部が1つにまとまって大き  
くなりすぎるのではなく、ある程度の規模であってほしいと考えている。

教育長：どの程度の規模がよいのかという話をさせていただくと、「クラス替えはできるが1ク  
ラスの人数は先生の目が行き届く範囲の人数がよい」という意見があったと思うが、  
両方とも成立しようとするのであれば、例えば1学年に2クラスで、1クラスあたり  
15人くらいであればよいのではないか、と思って聞かせていただいた。

現状の子ども的人数で考えると、町内の小中学校の1学年あたりの児童生徒数の平均  
は17人となっている。また、11月頃に住民の皆様や子どもたちに行ったアンケート調  
査の結果をみると、1クラスあたりの人数についての子どもたちの回答は11~30人が  
よいという意見がほとんどであった。同じアンケートの中で1学年あたりのクラス数は  
どの程度がよいかとたずねたところ、一般の大人、特に保護者世代の30~40代の方は  
圧倒的に2~3クラス以上の複数学級があるとよいという意見が多くなっていた。だ  
からそうするというわけではないが、そういう傾向にあるということは知っておいて  
いただくとよいと思っている。なお、今の小学校の子どもたちについては、クラス  
数をたずねられても複数クラスを経験したことがないためにわからなくても、自分の  
クラスに何人いてほしいかはわかるために人数について11~30人が多いという結果  
になったと考えている。こうしたアンケート調査や意見聴取をさせていただいて、こ  
れからのことを考えていくという取組みを審議会で行っている、ということを知っ  
ておいていただくとありがたいと思っている。

清水小では、2・3年生が同じ1クラスに在籍する複式学級を編制しているため、そ  
のことについての話を委員からお聞きしたい。

委員：清水小は2年生が5人、3年生が10人となっている。16人いれば各学年で学級ができ  
るが、合計すると15人となっているため、今年は複式学級となって2つの学年の児童  
を1人の担任が受け持っている。ただし、担任1人で2つの学年を受け持つのは大変  
だということで、臨時教員を充てていただき3年生の算数と国語を担当していただい  
ている。また、社会科は教頭が、理科はさらに別の臨時教員が担当している。そして  
体育は、人数が少ないことから3・4年生合同で行い、6年生の担任が教えている。  
このように、様々な学年の先生が入り交じりながら指導している。

2年生については担任が主となって教えているが、様々な先生が関わることができる  
よう、例えば音楽は5年生の音楽専門の先生が担当している。このように、1人の担  
任ではなく様々な先生と関わることができる、ということを清水小学校では強みにし  
ている部分もある。

参加者：上級生が下級生を教える、というようなことはあるか。

委員：そこまではできていないが、他の学校でも行っているような異年齢集団、いわゆる縦割りの班で一緒に遊ぶ時間はある。また、清水小は全校生徒が57人しかいないため、休み時間も学年や性別の垣根を越えて遊んでいる姿がある。勉強でもそうした姿が見られるよう、何かできるとよいという話は職員ともしているところである。

参加者：いび幼稚園にもそうした姿があり、非常によい環境だと思っていたため、小学校でも学年関係なく遊べているということは魅力的に感じている。もしも勉強でわからないところを上級生が教えるという環境をつくることができれば、上級生にとってもよいのではないか。

日本全体で人口が減っている以上、揖斐川町だけが人口が増えることは考えづらいため、それならば田舎ならではの教育を貫いたほうが、もしかすると都会からそうした魅力に惹かれて来る人も増えるのではないかと思っている。もしも少人数でできないことがあるとすれば、例えば体育の授業については他の小学校と一緒にやって行い、学校同士の対抗戦にすることでむしろ結束力を養うこともできると考える。町役場のところに止められているバスがあると思うが、それを活用して小学校間を行き来しながら授業を行ってはどうか。

教育長：先ほど言われた山県市はそうした他の学校に移動して授業を行う取組みを行っており、課題もあるが子どもたちは生き生きしていると聞いている。

参加者：揖斐川町は、統合の方向に進むのか。

教育長：今の段階では、私から方向性を答えることは難しい。今、審議会でその方向性について審議しており、そこで方針の案が出た後に町としての方針を決めていくことになる。

参加者：恐らく統合したらどれだけの予算が削減できるか、ということも計算はされていると思われる。当然先生の人数が減ることによって人件費も減ると思われるが、その予算が子どもたちに反映されるのであれば統合にも成果があると感じる一方で、その分の予算が他のことに使われてしまっただけでは子どもたちのための教育ではなくなってしまふ。あくまで子どもたちのための統合となるよう、子どもたちのことをもう少し考えた形で進めてほしい。統合する場合には、統合することにより削減される予算と、それをどのように子どもたちや小中学校に還元するのかについて透明化していただきたいし、そうすれば恐らく反対する保護者も少なくなるのではないかと思っている。

教育長：子どもたちの声を聞くことについては多くの意見をいただいております。我々もそのつもりである。また、統合の有無にかかわらず、子どもたちのための施策にしなければいけないということは念頭に置かなければいけないと考えている。

1点補足をすると、揖斐川町は岐阜県が配置する教員だけでは個々の特性に応じた指導・援助、支援を行うことが十分でないことや、教科の専門性を活かした指導を充実させたいという認識のもと、小中学校の教員を多く上乘せしている。先ほど子どもに特性があるという心配の声もあったが、きめ細かくみることができるよう町独自で教員を多く配置しているため、その点をご安心いただきたい。

参加者：私は子どもが年少になるタイミングで揖斐川町に引っ越してきたが、少人数であることが非常によいと思っており、揖斐川町に来てよかったと感じている。先ほど人数が多い中で紛れたいという意見があったが、私自身大規模な小学校で育ってきて、目立ちたいタイプではなかったためその気持ちはわかるし、クラス替えのわくわくする気持ちもあると思う一方で、人数が多い中で意見が言えないということがあった。また、

今はいび幼稚園の先生がよくしてくださっており、小学校もよくしてくださると聞いているため、私は少人数がよいと考えている。

参加者：私は今本巢市に住んでおり、子どもは1学年50人で2クラス、全校で300人の小学校に通っている。1年生の時に一番後ろの端の席となったため、勉強が苦手であったこともあり先生に気にかけてもらえるよう言っていたがなかなか来てもらえず、それならば席を替えてほしいと言っても時期が来るまではできないと言われてしまった。そうした経験から学校に行きたがらなくなってしまった時期もあったため、自身の経験も含めて考えると、少人数の方がよいと感じている。

委員：先ほど教育長から教員の確保に関して話があったが、保育士についても十分な数を確保してもらっており、幼稚園でも少人数に対してきめ細かな保育を行えるよう日々努力している。そうした中で、幼稚園としては保護者の方と電話ではなく顔を見て様々なことをお伝えすることができ、しっかりとコミュニケーションをとれていることがよい点だと感じている。

一方で、私が所属するやまと・きたがた幼稚園には子どもも多く通っており、気の合った子同士のグループができている姿もある。やはり小規模であるよさもあるが、そうした大人数であるからこそその経験を子どもたちにさせてあげたいとも思っている。少人数と大人数それぞれによさが多くあり、それを見ていただく機会がないことは残念に感じているが、人数が多いか少ないかにかかわらずしっかりときめ細かく対応しているため、その点にご安心いただきたいと思っている。

参加者：少人数にもよさはあると思うが、やはり大人数だからこそできる経験があるのではないか。人間関係についても、例えば北方町や瑞穂市の子どもたちは大人数で様々な性格の子がいる中で、人と学ぶ経験や大人数だからこそ接することができる経験などもあるだろうと思っている。少人数と大人数それぞれのメリットとデメリットはあるが、経験という点では大人数の学校だからこそできることもあるのではないか。ただ、今の少人数だからこそ先生たちによりきめ細かくみていただけている安心感もあるため、判断は難しいと思う。

教育長：少人数と大人数それぞれの長所と短所は整理しなければならないが、そのうえでどういった教育をしていくかについても検討していかなければならないと考えている。今、揖斐川町ではふるさと学習にも力を入れており、こういったことには学校の規模にかかわらず取り組まなければいけないというご指摘もいただいているため、そうした内容面についても今後検討していく。

### (3) お礼

- ・ 教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会